第２回おおくまハチドリプロジェクト　報告書（～事業化合宿）

プロジェクト概要

◆おおくまハチドリプロジェクトとは

このプロジェクトは、昨年度から始まった全国の学生による大熊町の発展のための企画立案プロジェクトです。
事前勉強会、現地見学会の2回の学びをもとにチームごとに自分たちの強みを生かした立案を行い、最終的に企画発表会にて町役場・関係者の皆様の前で発表を行います。
東日本大震災から10年目の節目に、当時小学生だった学生たちが改めてその歴史を振り返り、新たな角度から未来を見据え、知を集結してアイディアを提案することで、大熊町に対する若者の深い理解と関係人口の創出、また発展のきっかけとなることを目指します。

◆概要

・実施期間：2021年11月～2022年3月
・対象：全国の大学生
・参加費：無料
・主催：おおくまハチドリ協議会
・共催：公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト（企画発表会のみ）
・運営：株式会社Oriai
・協力：大熊町役場（このプロジェクトは「大熊町知の集結に資する学びの場の形成事業補助金」を活用した取り組みです）

◆実施スケジュール

事前勉強会	11月5日（土）18:00-20:00
現地見学会	11月13日（土）～11月14日（日）終日
住民対話セッション	11月18日（木）18:30-20:30
ブラッシュアップセミナー	12月1日（水）、12月2日（木）※各チーム1時間
企画発表会	12月19日（日）13:00-15:30

プロジェクトの流れ

事前勉強会 → 現地見学会 → 町民対話セッション → ブラッシュアップセミナー → 企画発表会 → 事業実施

11月2日　11月13、14日　11月18日　12月1、2日　12月19日　2022年1月〜3月

■メンターについて
おおくまハチドリプロジェクトは、各チームに企画立案に伴走するメンターをつける形で実施。
メンターには各種ビジネスコンテスト受賞経験者やワークショップ作りのプロ、起業家などを迎え、必要なタイミングでチームの会議に顔を出したり、アドバイスや参考資料を提供するなどの方法で関わってもらった。

奥川 季花（おくがわ・ときか）

1995年生、26歳。
株式会社ソマノベース　代表取締役

災害リスクの低い山づくりを目指し起業。購入者が山づくりに参加できる観葉植物「MODRINAE」を発表し、林野庁補助事業のWood Change Awardにてブロンズ賞を獲得、その後同製品にてクラウドファンディングを成功させる。

高橋 飛翔（たかはし・つばさ）

1994年生、27歳。
Acroforce株式会社　代表取締役

就活の在り方に疑問を持ち2016年に設立した学生団体にて1年間東京・名古屋・福岡に活動を拡大、その後法人化。
5年間で、優秀層10000名の就活・キャリア支援と、優良ベンチャー150社の採用支援を行なった。現在は複数事業を展開。

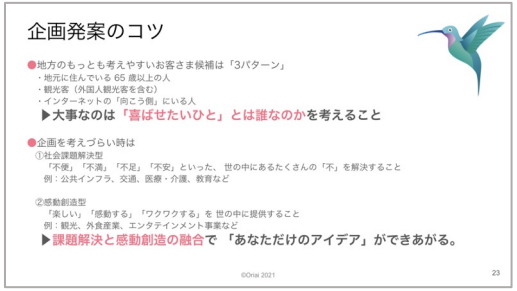
事前勉強会

■概要
・日時：2021年11月2日 16:00-18:00
・場所：オンライン（Zoomにて実施、スタッフは大熊町役場第4会議室にて実施）

■実施内容
・オンラインにて、企画調整課の菅原祐樹課長補佐・木村さんと参加者をつなぎ大熊町についてのレクチャーを行なった。
・大熊町の再生に関わっているUR都市機構の岩田さん、伊比さんにも会社での取り組みや、立案に向けた考えるポイントを教えていただいた。

■タイムスケジュール

- スタッフ・メンター自己紹介
- チェックイン
- 企画趣旨説明
- 大熊町について説明（菅原祐樹さん・木村欣央さん）
- UR都市機構の皆様より情報共有と立案ヒント
- グループワーク①感想シェアタイム
- グループワーク②アイディアブレスト
- チームごと発表
- 今後の流れ



現地見学会（合宿）

■概要
・日時：2021年11月13日-14日
・移動：大型貸切バス（1名現地集合）
・宿泊：ほっと大熊
・食事：持参、サービスエリア、喫茶レインボー、デイリーヤマザキなどを併用

■実施内容
・全員の検温と抗体検査の上、座席数に余裕を持たせ貸切バスで大熊町に訪問した。
企画調整課の方々とおおくまleadの皆様のほか、UR都市機構の皆様、キウイ再生クラブのメンバーを兼任されている方などにも来ていただき企画立案にアドバイスをいただいた。
合宿型にしたことで話し合い時間が十分に取れてチーム理解が深まり、立案内容も深めやすかった。
また外部の方を含む他者への発表が短期間に複数回設けられたことで、ゴールを見据えながら話し合うことができた。町民の声を聞けたことで後の話し合いでも対象者を考慮しやすくなった。

■活動の流れ
1日目：帰還困難区域を含む震災遺構を巡り→個々の関心ごとに企画立案チームを編成→企画会議
2日目：企画会議→ワンダーファーム見学→おおくまleadの皆様と昼食を兼ねた意見交換会→解散

■1日目の帰還困難区域 訪問場所
①ヒラメ養殖場
②サンライトおおくま（駐車場より福島第一原子力発電所を見学）
③国道6号線沿いの中間貯蔵施設と街並み
④旧大熊中学校
⑤大野駅周辺の商店街と街並み

住民対話セッション

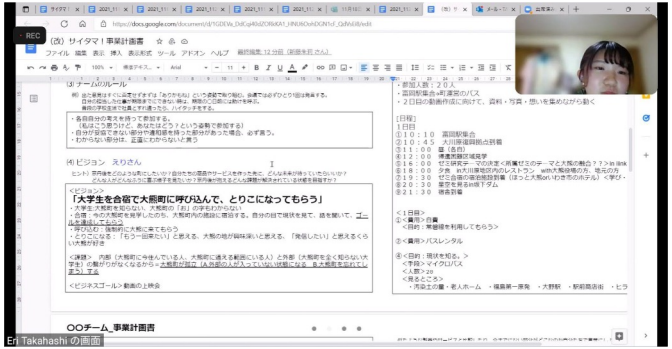
■概要
・日時：2021年11月18日 16:00-18:00
・場所：オンライン（Zoomにて実施、スタッフとゲストは大熊町役場第4会議室にて実施）

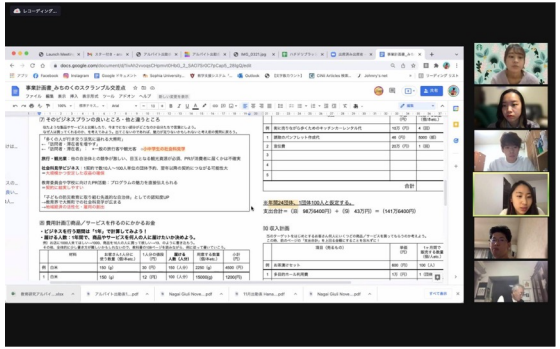
■実施内容
・事前に、チームごとに企画会議の中で出た疑問、質問をシートに書き込み提出してもらった。
・当日はシートをもとに学生からゲストへ聞きたいことを質問し、その場で回答をもらった。
企画に対するコメントや反応をいただくだけでなく、実際に大熊町に住む方と話せる機会として普段のライフスタイルや感じている課題、あったらいいなと思う施設などリアルな声を集めたことで、自分たちの仮定の是非も確認できる機会となった。

ブラッシュアップセミナー

■概要
・日時
- 12月1日（水）9:00-10:00　想い・記憶をつなげる曲作り
- 12月1日（水）13:00-14:00　ナチュラル大熊@古民家
- 12月1日（水）19:00-20:00　想いの実現
- 12月2日（木）13:00-14:00　おおくまマルシェ
- 12月2日（木）17:00-18:00　避難後訓練ツアー
- 12月2日（木）18:00-19:00　パレットおおくま

■実施内容
・講師に公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト代表理事の中川直洋氏を迎え、1チームずつ発表を行なった。
・発表は本番と同じ7分間で行い、講師とスタッフそれぞれからフィードバックを受けた。その後学生からも聞きたいことを質問し、全体で1時間かけてブラッシュアップを行なった。前回に比べ時間に余裕を持って深いフィードバックを行うことを目的として進めた。





企画発表会 概要

■日時：2021年12月19日（日）13:00～16:15（開場12:30）
■会場：Linkる大熊多目的ホール
■参加費：無料
■運営：公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト
■協力：株式会社Oriai、大熊町役場
■ゲスト：農業委員会 会長 根本さん
おおくまleadの皆様（後藤勝さん、鈴木州治さん、佐藤亜紀さん）
UR都市機構社員の皆さま（岩田萌さん、伊比友明さん）
東京電力の皆様（渡邊伸さん、桐生有朋さん、石井大翔さん、南場和希さん）
■役割分担

審査員	おおくまハチドリ協議会　会長：吉田学（よしだまなぶ）様 企画調整課：永井誠（ながいまこと）様 産業課：愛場学（あいばまなぶ）様 生活支援課：石田祐一郎（いしだゆういちろう）様 教育総務課：菅井優士（すがいゆうじ）様 公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト：中川直洋（なかがわなおひろ）様 株式会社Oriai：松井大介（まついだいすけ）様
ディレクター	大浦佐和
司会	大久保碧
スライド	仁井ひな
音響	阿野真由香
介添	大浦佐和

企画発表会 概要

■審査基準

審査員には、以下の観点から各チームを合計100点満点で評価していただいた。

①共感性（多くの人が応援したくなるか）
②社会性（実現されれば社会がより豊かになるか、SDGsの観点から）
③ビジネスモデル（ビジネスとして成立するか・実現可能性は高いか）
④プレゼンスキル（話し方・スライドの完成度・態度）

※以上4項目を、各25満点中何点を付けたか、記入いただいた。
※審査方法
・司会の合図で審査員室に移動
・まずは全員の審査シートを見せ合い合計点を算出
・合計点を見た上で、各審査員の評価を述べていき、更なる加点があれば行う
　総合的な観点でグランプリを決定

企画発表会

■チラシ・タイムスケジュール

第２回 おおくまハチドリプロジェクト 企画発表会

わたしたちが大熊に想うことと、
わたしたちにつくれる大熊の未来のこと。

12/19（日）

日時：13:00～15:30
場所：linkる大熊 多目的ホール

プロジェクト概要

おおくまハチドリプロジェクトは、昨年度初めて開催した、学生による大熊町への企画立案プロジェクトです。
関東圏を中心に全国から集まった 27 名の高校生・大学生たちが実際に勉強会をした上で帰還困難区域に１泊２日で滞在し、チームごとにさまざまなアイディアを出し合ってきました。

昨年度以上に本気度を上げ、実行まで見据えて手を挙げたメンバーたちが、２ヶ月間にわたり事業計画を練った成果を、皆様に是非お聞きいただきたく思います。

●発表事業一覧

「想いの実現」
「パレットおおくま～色と音の溢れるまち～」
「おおくまマルシェ」
「ナチュラル大熊 @ 古民家」
「避難“後”訓練ツアー」
「歌い継がれるテーマソング作り」

ヒラメ養殖場と近隣地域の見学の様子

福島第一原子力発電所の見学の様子

大熊町役場でのワークショップの様子

チーム分けワークショップの様子

活動の流れ

帰還困難区域も案内していただいた上で企画を立案しています

昨年度からプロジェクト内容が刷新され、今年度は発表会後に必ず複数の事業を実行に移すまで伴走します。
自分自身がプレーヤーとなり大熊町の発展に向けて尽力したいと考える学生たちの想いを形にしていきます。

事前勉強会（11 月 2 日） → 現地見学会（11 月 13、14 日） → 町民対話セッション（11 月 18 日） → ブラッシュアップセミナー（12 月 1、2 日） → 企画発表会（12 月 19 日） → 事業実施（2022 年 1 月～3 月）

主催：おおくまハチドリ協議会（大熊町知の集結に資する学びの場の形成事業補助金を活用しています）
共催：公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト　お問い合わせ：info@oriai.jp

タイムスケジュール

イベントは以下のような流れで進行していきます。入退場は自由ですので、お好きな時間にご来場ください。
※12:30 より開場しています。

13:00	13:00～13:17 オープニングコンテンツ 開会挨拶、オープニング VTR、企画趣旨の説明
13:15	
13:30	13:20～ ①おおくまマルシェ 営農再開を盛り上げ首都圏と大熊町をつなぐマルシェ開催
13:45	13:35～ ②記憶・想いを繋げる曲づくり Tiktok を活用した全国規模オーディションで子どもたちも歌い継ぐテーマソングを決定
14:00	13:50～ ③想いの実現 大熊町を学びの町に位置付け大学のゼミ合宿を誘致 休憩時間
14:15	14:15～ ④ナチュラル大熊@古民家 ありのままの大熊町を残す資料館と季節のイベントで町の内外から人が集まる拠点に
14:30	14:32～ ⑤避難“後”訓練ツアー 小中学生の社会科見学の目的地として「訪れる意味」に溢れた町へ
14:45	14:44～ ⑥パレットおおくま～色と音のあふれるまち～ 新進気鋭の芸術学生が長期滞在するアートフェスで大熊町に色彩と音を取り戻す
15:00	審査・休憩時間
15:15	15:15～15:30 結果発表・表彰式・講評・閉会 本大会のグランプリを決定します
15:30	
15:45	

審査員の皆様

事業プランを実際に町で行なっていくことを視野に入れながら幅広い可能性を見据えてコメントいただくため、町内外からお集まりいただきます。

●審査員長
おおくまハチドリ協議会 会長　**吉田 学** 氏

●審査員
大熊町役場 企画調整課 課長　**永井 誠** 氏
大熊町役場 産業課 課長補佐　**愛場 学** 氏
大熊町役場 生活支援課 課長補佐　**石田 祐一郎** 氏
大熊町役場 教育総務課　**菅井 優士** 氏
公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト 代表理事　**中川 直洋** 氏
株式会社 Oriai 代表取締役　**松井 大介** 氏

審査基準

審査員の皆様には、各チームの発表をそれぞれ合計 100 点満点で評価していただきます。

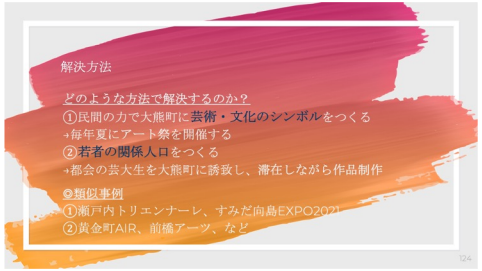
①共感性（多くの人が応援したくなるか）
②社会性（実現されれば社会がより豊かになるか）
③ビジネスモデル（ビジネスとしての実現可能性は高いか）
④プレゼンスキル（話し方・スライドの完成度・態度）

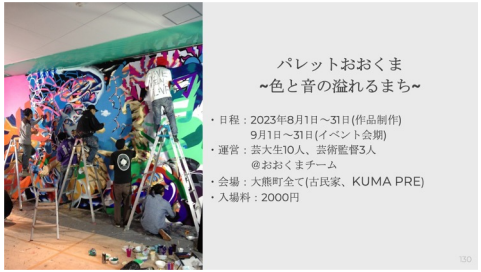
※以上 4 項目を各 25 満点、合計 100 点満点で評価いただきます。

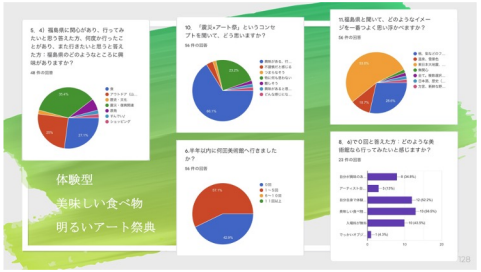
※審査方法
・司会の合図で審査員室に移動いただきます。
・まずは全員の審査シートをお見せいただき合計点を算出します。
・合計点を見た上で、各審査員の評価を述べていき、総合的な観点でグランプリを決定します。

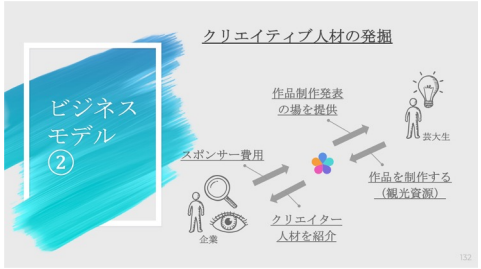
グランプリ受賞チーム

■「パレットおおくま～色と音のあふれるまち～」







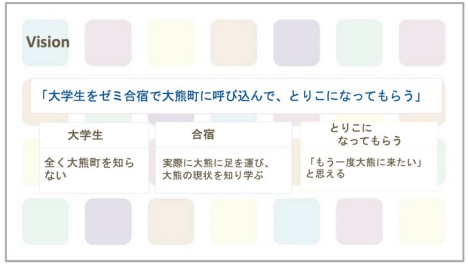


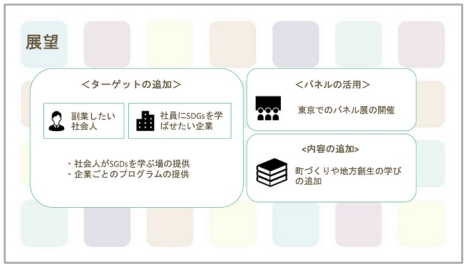
	単価	一回で用意する数量	合計
作品制作費用	400,000(円/人)	80%を負担 最大40万円	4,000,000(円)
関係者生活費(10人)	3,000(円/日)	30(日)	900,000(円)
移動費(20人)	120,000(円/台)	2(日)	240,000(円)
謝礼	200,000(円/人)	3(人)	600,000(円)
来場客用資材など	1,000(円/人)	1000(人分)	1,000,000(円)
合計			6,740,000（円）

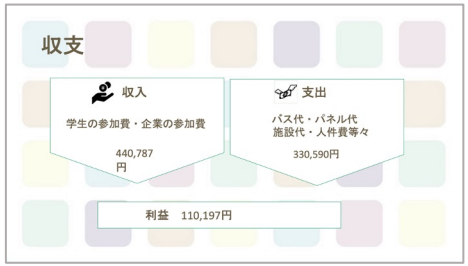
現地見学会で大熊町を歩いた際の
・生活音がしない
・色彩が少ない
（仕事で大熊にいる人は制服や作業着で私服の人がいない）
という気づきをもとに『若者が大熊に集まり、賑やかな声を響かせるプロジェクトがしたい！』と、大学生たちによる芸術祭を計画。
準備段階から実施に芸大生に話を聞いたり、集客は自分たちで担うなど、本気度の伝わるプレゼンがグランプリへ導いた。

審査員特別賞 受賞チーム

■「想いの実現」







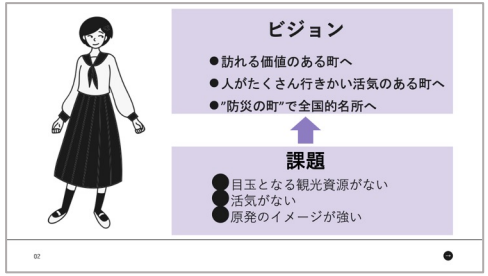
自分たちが本プロジェクトで初めて大熊町を知ったことから、「何かしたいけれどできていない若者」が大熊町に来るきっかけを作り「もっと担い手を増やしたい」町とのマッチングを行いたい、とツアー企画を考案。

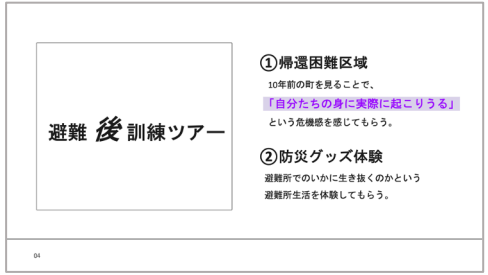
内容としては、大学のゼミ合宿先として大熊町を提案し、環境問題やテクノロジーを学ぶ学生たちにツアーを敢行。リアルな町の課題や大きなフィールドを生かし、研究につなげてもらうことを発表した。

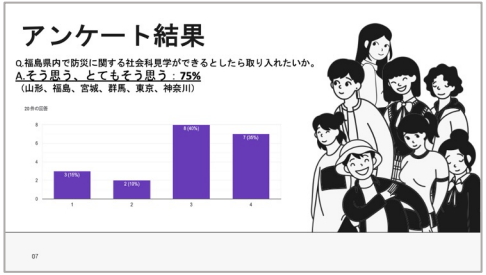
今すぐにでも実行できる可能性の高い、現実味のあるプレゼンが評価された。

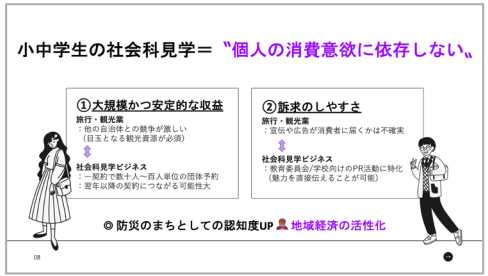
審査員特別賞 受賞チーム

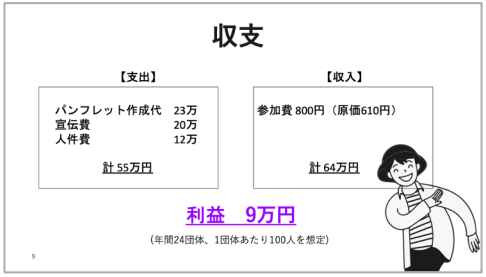
■「避難後訓練ツアー」











東日本大震災の被害が強く残る地としての大熊町の可能性を捉え直し「大熊町だからこそ学べる防災」を子どもたちに体験してもらう社会科見学のプランを考案した。

個人の消費意欲に左右され競争も激しい観光分野での再生ではなく、クラスや学年単位で町に訪問してもらえる教育分野での再生を訴えたことが特に印象的であったほか、地震や災害が起きた後の『避難後』をどう過ごすかを学ぶコンテンツの重要性も訴えた。

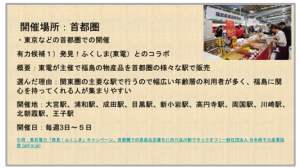
収支計算の甘さを指摘されつつも、この町で行うことに意味のある事業提案として特別賞に選出された。

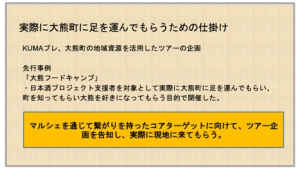
その他の発表

『おおくまマルシェ』

農業に関心のあるメンバーが集まったチーム。
大熊町の営農再開に向けた動きを知り、都内と福島県内にてマルシェ形式での商品販売を考えた。

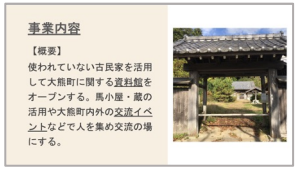
放射能に対する不安をどのように払拭するかを考えながらも、魅力的な商品をどのようにPRするかを試行錯誤し、町民と大学生による新商品企画ワークショップなどの開催もアピールした。

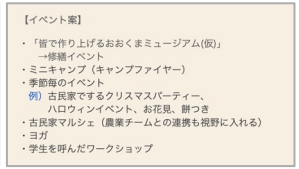




『ナチュラル大熊@古民家』

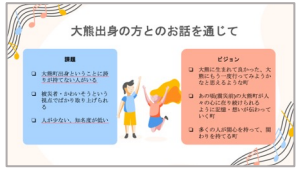
元々の豊かな自然や昔ながらの大熊町の風景が失われていくことに課題を感じ、登録有形文化財となった渡部家の活用方法を考案した。
ナチュラルな大熊町の魅力を存分に生かし、一度は大熊町を離れた人々も訪れやすい、イベント企画が多数行われる資料館としての再オープンを提案。審査員からは他の伝承館との差別化の懸念点がコメントされた。

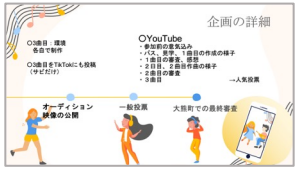




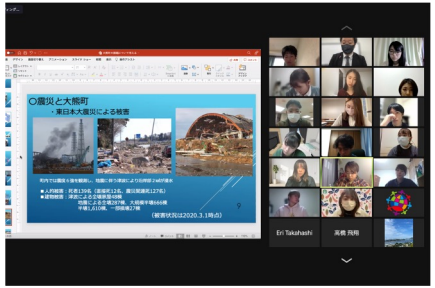
『記憶・想いを繋げる曲作り』

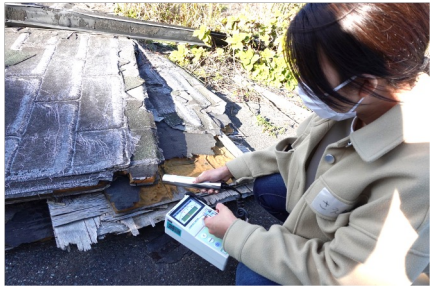
震災当時の気持ちは良い意味でも悪い意味でも少しずつ忘れていってしまう、との町民の声や、大熊中学校で見た当時の学生たちの想いを知り、残していきたい記憶を現代らしく歌に乗せて伝えていくオーディションを企画。
TikTokクリエイターを誘致することで若者の認知を広げることを目指し、震災遺構ツアー／音楽ライブ／オーディションを一連のプロジェクトにまとめ上げた。



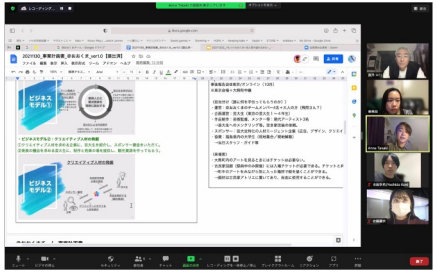


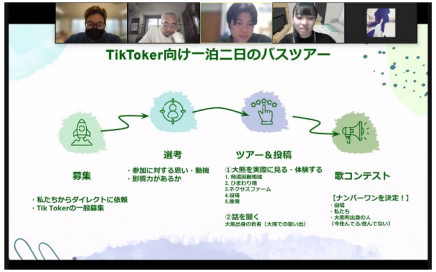
活動写真

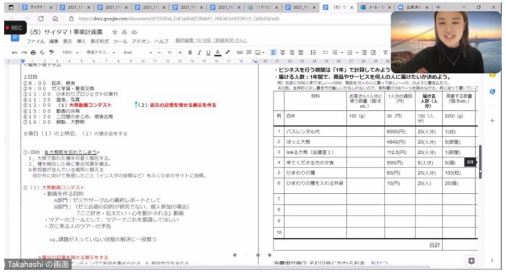




活動写真


ビジネスモデル1
ビジネスモデル2


TikToker向け一泊二日のバスツアー
募集
・私たちがダイレクトに依頼
・Tik Tokerの一般募集
選考
・参加に対する思い・動機
・影響力があるか
ツアー＆投稿
①大熊を実際に見る・体験する
1. 特定出身地域
2. ひまわり畑
3.クウセツファーム
4.公園
5.海岸
②話を聞く
大熊出身の方達（大熊での暮らし出）
歌コンテスト
[ナンバーワンを決定！]
・研究
・私たち
・大熊町出身の人
（中高んでる住んでない）

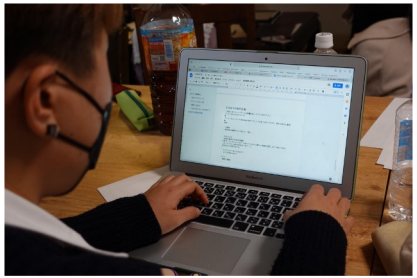

Takahashi の画面

開会の挨拶・企画趣旨説明
株式会社Oriai 代表取締役
松井 大介

学生の社会科見学＝"個人の消費意欲に依存しない"
①大規模かつ安定的な収益
②訴求のしやすさ
地域経済の活性化

SDGsを取り組んでいく重要性に気づく
＜知識面＞
①企業が社会でSDGsに取り組んでいること

事業化に向けて

■事業化合宿

・日時：1月5-6日
・場所：新大久保
・参加メンバー：古民家（1名）、マルシェ（2名）想いの実現（3名）、パレットおおくま（2名）
・内容：1泊2日で行い、改めてメンバーの自己紹介を行なった上で、各チームごとに3月19-20日にかけて行う本番に向けた話し合いを行なった。事業計画書を新たに書き込む形で行い、コンセプト、収支計画、集客方法などについて考えた。